

学生番号

氏名

1 円環領域  $1 < |z| < 2$  上の調和関数  $\Phi(z)$  で、次の境界条件をみたすものを求めよ。

$$\Phi(z) = \begin{cases} +100, & |z| = 1 \text{ の場合;} \\ -100, & |z| = 2 \text{ の場合.} \end{cases}$$

また、 $\Phi(z)$  を実部とする解析関数  $F(z) = \Phi(z) + i\Psi(z)$  を求め、 $\Phi(z) = \text{一定}$  と  $\Psi(z) = \text{一定}$  で表される曲線がどのようなようになるかを図示せよ。

(注： $F(z)$  は領域  $1 < |z| < 2$  全体で一価関数にはならないが、この問題では重要ではない。)

[解答] 前回の講義で述べたことから  $\Phi(z) = a \log |z| + b$  の形になる。そこで  $a, b$  を

$$a \log 1 + b = 100, \quad a \log 2 + b = -100$$

を満たすように選べば良い。具体的には  $a = -200/\log 2$ ,  $b = 100$  であって

$$\Phi(z) = -\frac{200}{\log 2} \cdot \log |z| + 100.$$

後半は、共役調和関数を（以前やった方法で）求めても良いがかなり大変である。ただ、 $\Phi(z)$  の形から

$$F(z) = -\frac{200}{\log 2} \cdot \log z + 100 = -\frac{200}{\log 2} \cdot (\log |z| + i \arg(z)) + 100.$$

であることがわかる。(解析関数  $\log z$  の実部が  $\log |z|$  であったことを思い出そう。) また、 $\Phi(z) = \text{一定}$  で表される曲線は原点を中心とした円になり、 $\Psi(z) = \text{一定}$  で表される曲線は原点を通る半直線になる。